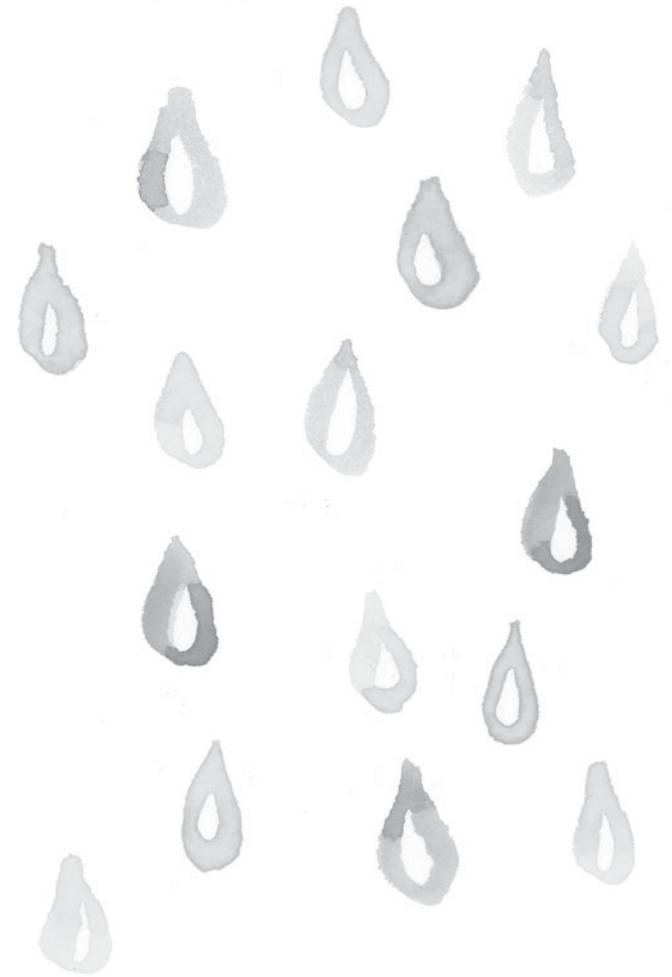




みずつき

5

「水」がテーマの合同短歌集 2016年 初夏



2016年初夏 「水」がテーマの合同短歌集 みずつき5

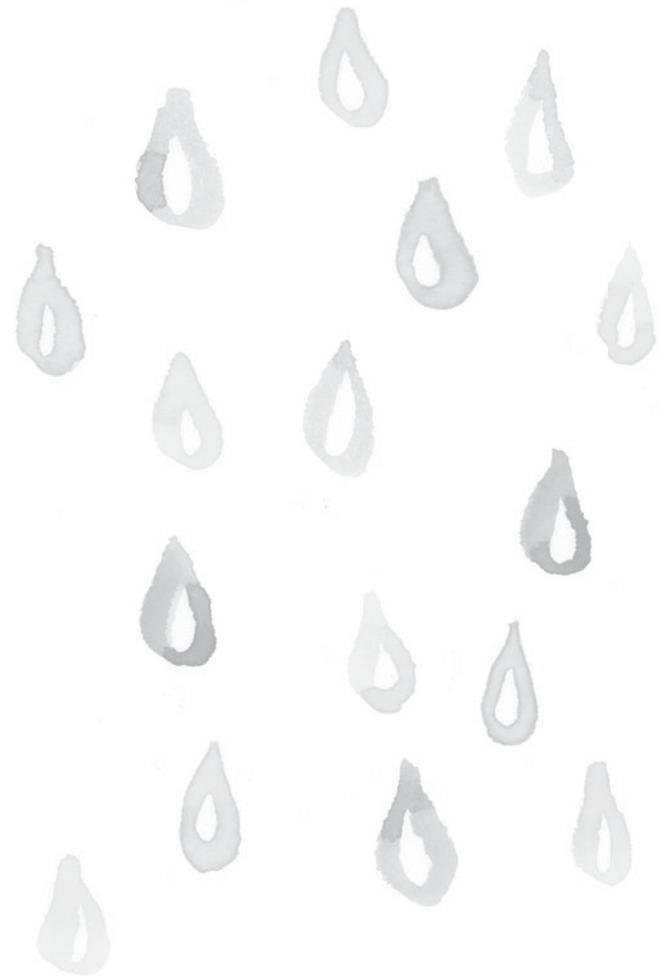
発行：2016.06.06 | 短歌：ご投稿くださった皆様 | 企画・編集・装丁：千原こはぎ

あきのみずほ  
空記野みずほ  
あきやまきいと  
秋山生糸  
あめのうずめ  
天野うずめ  
ありもらききょう  
有村桔梗  
あのかよ  
杏野カヨ  
いだなお  
井田直  
いづみつ  
伊豆みつ  
  
いないずみ。  
  
うさうらら  
うしりゅうすけ  
牛隆佑  
うよきよせつ  
紆夜曲雪  
えいじ  
泳二  
おおたせいじ  
太田青磁  
おおはしはると  
大橋春人  
おかわまご  
小川窓子  
おぎもりみほ  
紡森美帆  
おのだひかる  
小野田 光  
かいぜん  
@kaizen\_nagoya  
かざはし おきも  
風橋 平  
かしはらかずと  
梶原一人  
かずさ  
梶紗  
かぜのみずと  
風野瑞人  
  
かつらいす  
かわしまれい  
河鳶レイ  
かわはたきこう  
川庭多機構  
  
きつね  
きはらねこ  
水原ねこ

きわこ  
希和子  
くどうよしお  
工藤吉生  
けいびねじ  
鷄尾ねじ  
こうのよう  
河野 瑤  
こうもらかな  
香村かな  
こぎともし  
漕戸もり  
ことひらういち  
琴平葉一  
さくまるね  
左久間 瑠音  
  
ササキ アンヨ  
さきたにかな  
笹谷香菜  
しつとりんご  
嫉妬杯檜  
しまださくらこ  
嶋田さくらこ  
じやつくまめ  
雀來豆  
しゆんれい  
春麗  
すぎたにまい  
杉谷麻忒  
スコラブ  
  
たえなかず  
たけだ  
竹田  
たねがしまつおとこ  
種子島鉄男  
たもらはだか  
田村穂隆  
ちりりん  
知己凜  
ちはらこはぎ  
千原こはぎ  
つかだちづか  
塚田千東  
つきおかないる  
月丘ナイル  
つきした さくら  
月下 桜  
  
とみいえひろこ  
ながつきゆう  
長月優

なかもらせいじ  
中村成志  
なつきゆう  
奈月遥  
ななみ  
七波  
にしじゆんこ  
西淳子  
ぬまじりつたこ  
沼尻つた子  
はしばみ みずほ  
榛 瑞穂  
はつか  
薄荷。  
  
ひそのゆうこ  
ふえちしずえ  
笛地静恵  
ふくやまもか  
福山桃歌  
ふくるま あめ  
文車 雨  
ふるいひさしげ  
古井久茂  
ほさきまどか  
穂崎円  
ますだむつろう  
増田達郎  
みかげことは  
深影コトハ  
みなみるか  
南瑠夏  
みみ  
忒未  
みやぎみずほ  
宮水水菜  
みやじまいつく  
宮嶋いつく  
もぎのゆか  
麦野結香  
もらたかおる  
村田馨  
もちつきまりは  
望月万里葉  
  
ゆき  
よしかわみほ  
吉川みほ  
  
ルオ  
わいかわ  
丫川

ご参加  
いただいた  
皆さま  
(五十音順 敬称略)



## みづのうた

さみだれのみだれの部分ウォーターインリップの青き文字は揺らめく  
ウィルキンソングジンジャーエールの金色に水溶性の記憶さやさや  
みなづきのあやふいバランスわたくしの水位をはかるめもりはゆれて  
水色のしふおんの翅のひらひらとすがるをとめよわすれないでね  
ひたひたと細胞みづくむポートアイランドにむかふ青いやじるし  
まだだれもしらない雨のはじまりを運命線にうけるてのひら

ゆき @chatdeyuki

## 水の中から

正午過ぎどこにもゆけない観覧車 回教寺院のむこうには海  
貝殻の螺旋の中の「しん」という音が聴こえる 水から生まれた  
幸福な深海生物ただよって名前を持たないまま水の中  
水底で吐かれた嘘は満ち満ちて海から四月の魚の群れ  
言えたかもしれない言葉あつたかもしれないあの日 雨がやま  
やまないね雨やまないねと言いつつ舟は浮かびはじめる

吉川みほ @books\_hyacinth

## 宵祭り

宵祭り水紋模様の中着はあなたのために新調しました  
繋がれぬ手が水風船もてあそぶ袖はなびけば触れられるのに  
すくえないつかまえられない逃げていくすり抜けていくきみも金魚も  
川縁にまわる小さい水風車 木下駄に飛沫かからぬように  
水菓子持つ手震える 一斉に響く風鈴 かき消す言葉  
ソーダ水飲み干し最後の「さようなら」あなたのいない夏のはじまり

空記野みずほ @coffeeinkpress

## 雨音とタイヤ

スピードを上げて ガラスを雨粒が震えて登るところを見たい  
もう一度はるかな雲になる夢をかき消しながら進むワイパー  
ワイパーの音を聞きつつ眠るのが好き 泣きやすい月に生まれて  
サイドミラー飾る水滴ごしの世界まるい歪みに守られている  
雨、エンジン、タイヤの摩擦、カーナビとあなたが何か会話している  
水たまりいくつ踏んだか数えてる百になるころ街灯が点く

秋山生糸 @kito25

## 午前八時十五分

五年間住んでた街の川だから三角州にも引かれた黄線  
ノート閉じあの頃泣いたもの思う死ねない人が群れゆくビデオ  
「一杯の水をください」「ええどうぞ」そんなことさえ言えない悲劇  
出来ればと続いた歌と水を受けキョウチクトウが揺れてる花壇  
青空に似たネクタイを崩すほど強い抱擁伝えるテレビ  
明日からは全てを流す雨が降る片付け終えて手合わず時間

ルオ @ruo129

## 宇宙からの雨

見慣れない形の船から見慣れない形の人がわらわらわらと  
この星は水の星だね遠くから来た僕たちはひっそり笑う  
火星にも海はあるのと言う君にやさしくわたす白い貝殻  
七月の夜空をごらん彗星はミルキーウェイを遊泳してく  
漂った先で待ってる名も知らぬ人ともきつと仲良くできるよ  
宇宙から雨が降ります ベントラー 覚めない夢もきつと覚めます

Y 川 @cloneyamato

## swimming school

泳げない人は一番右端のレーンと言われ僕だけが立つ  
10mラインは遠く引かれてて見たこともない犬かきをする  
ビート板につかまりプールの底を見る水の中とは不思議な記憶  
息継ぎのたびに口から入る水塩素の臭いをお腹で感じる  
頭では理解しているクロールのバタ足だけで切る波高し  
人間の進化としておく泳げない理由を求められたときには

天野うずめ @uzume\_no\_hijiri

## みづ

わたくしの夢のなかまでりうりうと真夜中色の雨は降りをり  
みづうみに棄てたナイフは錆びるだらう 赦してもよい時の速度で  
波打ち際つづくあなたのあしあとを踏み消すやうに短夜をゆく  
名付けえぬ感情としてわたくしのなかに流れる水脈みづなのあること  
旅人の雨の匂ひの満ちてゆく駅の待合室に眠りぬ  
立ち尽くすわたしにルビをふるやうにただ六月の雨は降りをり

有村桔梗 @chattenoire\_k

## 雨曜日

すこやかに気だるい午後の水曜日あなた似のゆるいのが可愛い  
水浸し愛の証をばらまいてあたしも君も所詮液体  
雨の夜好きな映画を見ている嘘ですあなたを見ているのです  
雨宿りしたまま二年経ちました隣できみが傘を持つまま  
紫陽花は雨を愛しているのですだから傘などささないのです  
会いたくて泣き出しそうな空のいる私自身が雨なのでしょう

杏野カヨ @kayo\_anno

## 水を抱く

雨上がりのいつもの角の紫陽花に歩みをとめるきみを見つめる  
水たまり飛び越す姿明日はまた違う日だって知っているんだ  
いつだって真水のようなまじめさできみは言葉にこころをこめる  
朝起きてまず1番に水を飲むほくろの位置は右肩だっけ  
僕の中海が生まれる 駆け寄ったきみが小声でささやくときに  
木は木だし川は川だというきみのうすき手のひら幼子を抱く

井田直 @id\_na00604

## 堀川めぐり

堀川の水面さざなむ 船頭のうなる舟唄心地よく  
椿谷 小鳥の唄う森にいてサファリボートの趣がある  
手を振るも観光客に関心のない鴨たちの隊列は行く  
遊覧船揺られてみれば堀川の亀はいつでも不動の瞳  
橋くぐるたびに身体をかがめては君のうなじに目をうばわれる  
堀端で竿を振ってる少年の日々がわたしもかつてあったよ

宮嶋こしこ @miyazima\_izq

## Kitchen

十余年ガス台のないキッチンで鼻歌に乗り水は流れる  
悔しさを忘れるために捏ねる肉 脂・役割・未練を流せ  
ふるさととは忘れちゃいけない煮魚の汁に少し足します柚子胡椒  
本当は誰かのために立ちたくて未遂のままでビールをべしゆり  
蛇口から流れる水が旨い場所今後もここで生きていくこと  
キッチンを流れる水は代弁す 知らないはずのわたしの何か

麦野結香 @yuka\_mjkt

## DROP

冬の雨を受け入れてあるこの街でサンタクロースの不時着を待つ  
明後日は雨であらうか天気図に歪に描かれた水溜まり  
県北のぼたぼた雪を降水と、お姉さん泣かないでよねがひ  
手袋の毛糸になじむ、いや溶けちまふ雨粒のあぁ、上がつたね  
しろつぶ、どろつぶ、しろつぶ、どろつぶ、しろつぶを動詞としては載せない辞典  
折り畳み傘を（こめんね）取り出して鞆の口をかたく、しめた

伊豆みつ @izmit\_tanka

## わたしに戻る

ほころばやがてあなたは去るでしょうやわらかく降る雨の中庭  
自己愛の軽くなりゆく齡にて海の近くに杭を打たぬか  
ひたすらに海に近づく夢を見て補完されゆく私の影  
ミルフィーユ選ぶゆうべに雨が降りわたしは強いふりしかできぬ  
はつなつのジキルとハイドのさみしさを海の青さに晒してゆけば  
雨が降る前のおいに包まれてわたしはわたしに少し戻った

いなごみ。 @inizmk

## 淀川水系

芹川のせせらぎを背につらつらと彦根の城へ歩を進めゆく  
法律の上では河川になるといふ琵琶湖にはるか竹生島が揺れる  
大友皇子の涙に思い馳せ雨降りやまぬ瀬田の唐橋  
生食と磨墨競いし宇治川をゆたり京阪電車が渡る  
大阪の男が歌い大阪の女は笑う道頓堀の夜  
不審火の広がりがてなお淀川は素知らぬ顔で海へと消える

村田馨 @kaoru\_murata

## 雨宿り

水を得た魚にもなれて傘はいつも折り畳まれた御守りだった  
土砂降りの雨のミサイル撃ちぬいて コレデワタシガ一番キレイ  
泣きながら追いかけてきた雨にもう振り向かなくていい夏の午後  
体温も視界も脈をうつように奪われてゆく また通り雨  
蒼すぎる空を曇らせ背を向けた 次第に雨はかなしみを増す  
雨はよし 人目気にせず泣けるから ひととそんなんにかんたんじゃない

望月万里葉 @pehonarion

## ケモノの水源

数式の森奥深く分け入って誰も知らない水源がある  
狼が優しく撫でている膝にわざとこぼしたのは誘い水  
目隠しはいいね泣いても泣かせても優等生のままでいられる  
水を弾く、のは、若い肌、だけだ、って、言葉をもっと浴びせてください  
生臭い身体を隅々まで洗い流して一からまた愛される  
明け方の青すぎる雨が止んだ後ノアの箱舟に似たじしん雲

深影コトハ @cotoha\_mikage

## 此処からは雨

人間はみんな虚しい六月の鳴咽のような雨に打たれて  
雨の日はちゃんと雨が降っている動物園へ閉じ込められる  
絶望も代弁されて七月の山間に降る酸性の雨  
青色のボールペンで書く日記 私の世界で雨と呼ぶもの  
正夢になるかもしれない夕立にいちばんやさしい名前を付ける  
人生の某みたいに雨が降る あなたに出会うずっと前から

南瑠夏 @blue\_rebels

## 水匠

なんべんも空に垂線ひきなおすあの水琴窟の鳴るところまで  
ウオオータアアと叫びたくなる烈しさを押し戻すように傘を拡げて  
水蜜桃眠る産毛のつめたさを撫でてひみつを逆立ててみる  
群青の帳の肢体裂かれればシヨカシヨカと啼く水茄子  
トビウオの跳ねから羽が出るまでの輪廻かさねるように白波  
閉じられた二指の間をこじあけて夏へと誘うビーチサンダル

うさうらら @usaurara

## 水曜の使者

日曜の使者は遠くへ 水曜の使者なら僕を深いところへ  
みつびしのエレベーターはゆっくりと閉まった 首を絞めるはやさで  
窓のない部屋は潜水艇のよう ふたつの息を夜に沈める  
これはガソリンよりも高価な飲料水 撒き散らしたら燃えるだろうか  
国道をすべりゆく車の音も それは潮騒なのかもしれない  
そうだとでもそのままでもいいと言う あなたが蟹のようにさびしい

牛隆佑 @ushiryu31

## 水の熱

体から蒸発してく水分がきみからもう水で潤う  
きみを抱くたびにわたしの殆どが水分だったと思い返して  
きつとまた身悶えしては泣くだろう波音さえも誘う劣情  
水温む季節を巡る何度目かきみの心を未だつかめず  
涼しげな水色のシャツ脱ぎ捨てた彼の獣を誰も知らない  
めくるめく夜を幾つか過ごしても夢から覚めず続いてく熱

忒未 @mimi\_4567

## 天水

放水路満々と充つその傍の出水鎮めの水神の杜  
龍神が祝ふ雨にて潤さむ可淡ドルの真直ぐな瞳  
花筏煉瓦に沿ひて流るれば甲武電車の影の過ぎゆく  
堤より溢るるほどに寄す水に畏るる心わずかな期待  
眺むるは隣県なりと対岸は異界の如く霞みて遠し  
夏までは来年までは生きようか訳なく真似る桜桃忌前

宮木水葉 @miyagi\_mizuha

## 白雨、光の剥片

五月雨の玻璃に浮かべるきみの瞳のくらさをいはんとすれば烏羽玉  
蜻蛉せいらいのつと沈ませる水面ほど浅き古傷撫でさせてゐる  
葉は虫に花は季節に喰はれけりけれど雨中に身を研ぐ桜  
花かみぞれかわからぬものに持たれゆく追憶といふ咲わへる旅を  
麦藁帽にすくへるだけをすくひつつ白雨、光の剥片として  
てのひらといふ帆船に享くる風 美はしきことさへ泳へねばならぬ

紆夜曲雪 @cell\_44

## 雨を待つ町

あの人と電車が駅を離ればと残り残されて雨を待つ町  
湿り気をおびた空気が大げさにへリコプターの音を伝える  
明日にはいない気がするビルの上ぼんやりひとり立つ避雷針  
バス停も郵便局も何もかも沈んでしまえみたいな驟雨  
アーケードまでの雑踏 わたしには溢れる川はないのでしょうか  
あつという間に止んだ雨ひたひたとひとりという名の楽器を鳴らす

泳一 @Eishimada

## 雨色に咲く

あかねさす紫陽花の花の紫が夏日の街をわずかうるおす  
白き花が日ごとさやかに色みゆく飲めない人の酔いたるごとく  
薄桃の山あじさいのほのかなるほほえみひとつ雨音消して  
水滴がひかりを集め映える色 雨上がりには川沿い歩む  
空よりも海よりもなおきわやかに路辺に咲く花 青を主張す  
鎌倉の明月院の花の香は過ぎゆく人の憂いをまとう

太田青磁 @seijota

## 雨と音楽

雨傘を失くした僕のために降る紫の雨、Purple Rain  
耳元のPink Floyd機械仕掛けの心臓を持つ人の傘  
大雨の瓦町駅二番線 Last Train Home じゅちゃん  
ゴミ箱にはみ出している新聞のKID Aは虹になりたい  
僕だって君と会いたい真夜中のEric Claptonに時雨を  
悩みのない日々が来るとは思わなければ Somewhere Over the Rainbow

大橋春人 @hachix

## 堰き止める

川沿いを歩く向こうは美しく消して渡っちゃならぬと思う  
触れたならばどけるような腕を持つ男の中で巡り行く川  
体液になるための水それぞれに違っていたが今日だけ一緒  
じうじうと降りくる雨は誰にでも優しいきみの言葉の後でも  
磨耗した競泳水着捨てるときもろもろ鱗腕うろでりがれるような  
晩夏、飛び込み台を見上げている独りになっても泳ぎ切れ 行け

文車 雨 @ganymede102

## 明るい窓辺

潤いのモンステラから透明が床までポツリ続いてポツリ  
やわらかい朝はシャワーを浴びましょうやわらかくない朝はないから  
太陽と肥料があつて健やかな日々の否定は絶対するな  
ぶよぶよの茶色い先をチョコキチョコキとすぐによくなくなるたつぷりの水  
羽のある生き物たちの楽園は黒く潤うお城のもとに  
完璧に育てていたし悪いのは君たちだから私は寝るの

古井久茂 @fulidom

## 時

密林に磁石が狂い（呼んでいる）富士山麓の水がうまい  
落ちてくる雨の質量に青い水玉のシャツが背にはりついて  
私の生まれる前からの 水芭蕉は白色剥けて尾瀬の状差  
夕焼けにぼくと光った花水木最期もかがやき伐られたそうだ  
落選したオリンピックの招致用エンブレムは水引のデザイン  
五十年働きづめの父だから足の水虫は勲章だよ

小川窓子 @madoko\_o

## 水槽を得る

わたしは（わたしは）水（水）輪郭が揺らめいている心臓を持つ  
水のなかからまずは指、それから手、そこから腕を伸ばしてきたのだ  
純水に生かされているわたしだけ透きとおるまで顔をなくして  
水でできたからだを千切る風が吹きどんなに見ても水のまぼろし  
人間になりすませない苦しさのために小さな水槽を得る  
銀色のトライアングル鳴らすたび音が水面を伝って消える

萩森美帆 @OgimoriMiho

## 聞こえなくても

青空の下で見えていたひどい夢いつかあなたに降りかかる雨  
街灯に夜の草むら香りだし死者の記憶は立ち上がるもの  
雨音にこめかみ冷えてお祈りは聞こえなくても続く（けれども）  
両手からこぼれるように慣れるだろう負けていること目を伏せること  
散る花をアスファルトへと沈ませて無いことにした幾つもの靴  
残響に残響ふれる夕暮れの弦楽、やがて静かに水面

穂崎円 @golden\_wheat

## 息をひそめた

雨だれの残り嬉しくなる夕べ理解者を得て理解者になる  
胸元で髪の毛が揺れているコップに水道水そそぎ飲む  
『人ばかり見ていた』ばかり読んでいる二人お風呂で息をひそめた  
蛇口から水を出す おおきいあくびしたそうにいるきみの早朝  
見えていれば いればいいなあ北の海 人魚の一人や一匹くらい  
ぼかぼかとぼかぼかはんは似ていると雨期の晴れ間に言える人なく

増田達郎 @y\_aao

## 雨に唄えば。

ネイビーの水玉スカート翻る降水確率十パーセント  
わたしには天気予報さえ嘘をつく頬にぼつりと水が触つて  
雨粒が歩道の色を変えていく足元だけが少し明るい  
傘たたく雨音ぼろん優しく小さく小さく鼻歌唄う  
ステップを踏むように弾む雨音にわたしの唄が隠されている  
水たまりよけて歩いたパンプスのつま先に夏が輝いている

薄荷。 @aieohimeco

## 雨のない街

ミニチュアの街水色のクレバスで塗りつぶそうよ わたしきみしい  
砂の上寄せては返すさようなら懐かしさだけ苦い波音  
身の内に湖などはあらねどもため池くらい持てる気がする  
湯のまちで飲むほの青い炭酸水あなたの中に海が見えるよ  
ひたすらに夕立を待つこともたち水なき街で手を上げ踊る  
雨のない街の果てには海があり渴水を告ぐ船が行き交う

ひそのゆうこ @zonostar000

## 雨音のキイ

そういうのずっと濾過してきたんだねピエロが鼻を泉にひたす  
雲ひとつない青空の朝だけはホットミルクの膜を捨てます  
真っ白なシャツの匂いがよみがえる面影橋をうつ天気雨  
泡に長い睫毛を落とすビール売りファウルボールに振り向きもせず  
お猫よ、犬、小鳥、人も聞きたまえ、汚され洗われ流れる音を  
雨音のキイと合わない傘の中で告げる言葉はうわすべりして

小野田 光 @hikarutanka

## 「つづく、まる」読書会、雨

読書会紅茶を淹れて書きかけの歌集の感想三分の一  
うずくまる雨の信号機の前で中家菜津子通るかもしれ  
あさくろい手術の跡がみみずほどうずく時にはききょうもまた雨  
雨の日に植物図鑑重すぎる抱えられずにWebに手帖を  
「今夏になった」雷言う空に雨が降り晴れ春が征んで  
「ありがとう洗って明日返します」謂ってみたいと翌朝思う

@kaizen\_nagoya @kaizen\_nagoya

## 時の水滴

ビー玉にわれはぶつかる敵の王カチンの音にからだへかえる  
水切りの石はねてゆく春の池 同心円の波は七つ目  
きみだけがない教室きみだけの花がこぼれるきみがこわれる  
積乱の雲ぞなだる夏休みラピュタの庭へ歌いに行こう  
生きてれば汚れることも傷つくことも次の電車に乗せて見送る  
蜘蛛の巣がきらめく朝のけもの道さあもうすこし登ってみようぜ

笛地静恵 @sufism

## 川のある街

川のある町に生まれて波風が立たないように暮らしています  
少しくらいわたしの話も聞いてくれ一級河川は名前だけかよ  
サワガニもウナギもアユもいなくなり河川敷にて鴨と竹む  
燃える町見つめた夏を照り返し曾祖母の目は静かに揺れる  
とめどない汚水受け止め澱むから海に憧れ死んでいく川  
土手走るヘッドライトが照らし出す川沿いに生きるひとひといのち

福山桃歌 @peachsong\_521

## 水影通信

城門へ堀へくだりぬ珈琲に牛乳ミルクの白をしずめるごとく  
水底に蓮の想いは眠りいんひとつつぼめる白のみゆれば  
一篇の詩を写したる紙の上に書き足している白蓮しろはすのこと  
わけもなく居れば宝飾店街へ入りて過ぎくる夕ぐれのある  
水の面をはなれて来たるまなかに水はかげりぬひとりをおもう  
桐の花 心にたのむ人はいてうすむらさきのおえる日ぐれ

風橋 平 @kazahashi\_0

## 死に水

雨女なる吾と会えど雨ひとつ降らざれば君晴れの神かな  
雷雲が稲妻だけを連れてきて二人の肩を濡らさず去りぬ  
子どもらの代はりに水を遺る父の腕毛は白く、朝顔光る  
清潔な祖父の病室潜り抜け兄と見ていた冬の噴水  
殺し屋がネクタイ結ぶ鏡越し初めて飲んだウオトカのネオン  
死に水はいらない真夏土曜日の午後練で飲んだ水道の水

梶原 一人 @MrDekopin

## 雨傘番組

雨だった頃の記憶が薄らいでゆくのを防ぐ新加除湿機  
喉元のくすぐり方がサイダーと似てるね水の代わりに飲む血  
さようなら鎖骨に残る雨粒はぬぐえば落ちてゆくキスマーク  
空梅雨に乾いた道でたい焼きは海を夢見る干からびながら  
蒸発を繰り返しつつ生きてきて湯気で終わった父の生涯  
密命を負った豪雨のひと群れがすわ、と野焼きへ飛び込んでいく

肩紗 @blueregret

## ワールズ・エンドの雨

真夜中の空の涙の影法師あなたに送ることばを隠した  
おぼつかないピアノのように何度でも乱れる五月雨 幕引きの頃  
ぼんやりときつねの嫁入り見てしまう愚かな顔で傘もささずに  
打ち込んだボーカロイドの無機質が滴のように埋め尽くす街  
とめどなく砂の器に沁み込んだつめたい人の記憶を留める  
雨の日のコアラの檻をひっそりと眺めていたい セカイよ終われ

風野 瑞人 @kmizuto

## 霖雨の庭

おそろいの雨のにおいを身に纏い待合室の一員となる  
ざわめきの雨を縫うように名を呼ばれ真白の部屋のカーテンをめくる  
体調はいかがですかと問われている雨を知らない部屋の主に  
淡々とカルテに記す人の背に霖雨で煙るちいさな窓が  
視界から輪郭をなくしてゆけば霖雨の庭に旅立つ意識  
「いいですよ」次に会うのは梅雨明けと予約を入れる呼吸のように

七波 @magicinapocket

## 水族館の人気者たちとボク

真夜中の水族館でペンギンは南極へ行く予定をたてる  
水上でラッコとともに手をつなぎ眠ってくれる職員募集  
濡れるのが大好きだった透明なビニール傘の来世はクラゲ  
宇宙ではアシカが水の惑星を使って芸をしているらしい  
エクセルのイルカは海に飛び込んで自殺したって、噂で聞いた  
生き物が全くいない水槽を眺めるボクはここで生まれた

西淳子 @Jacky244Ray

## ゆるめき

真夜中は夏の匂いにみちておりクチナシふわり溶けるみずうみ  
灰皿に落ちたしずくは星の色 つかは空に返してあげる  
祝いたい祝いたくない「すごいね」というたび君の声が遠のく  
雨粒の音が聞こえる靴下を脱がない夜のファミリーマート  
耳たぶに真珠を散らし織姫は川を渡って戻ってこない  
生ぬるい夜を歩けばゆらゆらと牡丹燈籠きらめく水面

かつら いす @v\_Titiu

## 水溶性

放課後が届けてくれたはつなつの雨は若葉のわたしを濡らす  
あまつぶのぼつりぼつりと降りてきて両生類は水を欲しが  
紫陽花が呼んでいるからはじめよう遠慮している雨の合間に  
触れるとき境界線が滲みだす水溶性の体だこれは  
満たされた水槽だったわたしたち触れたらこぼれてしまうほどの  
ボサノヴァは雨の日にきく波の音とおい異国で愛が死んでいる

河 薫レイ @ray\_kwsm

## 臍

噴水を断ちて久しき溜池の低きおもてに雨は粒だつ  
駅前を立てる女の彫像の臍より雨水流れ落ちたり  
銀縁をはずし目頭強く揉みあなたは再び活字へ潜る  
歳の差を数えて昇る石段に苔の匂いは濃くなるばかり  
山門をくぐりし風の御堂へと至る間に指を離しぬ  
海底に沈んだ都市のように聞く あなたと暮らしていた人のこと

沼尻つた子 @numatsuta

## 一人と一人

雨上がり地に残された水滴と小鳥が躍れば夏の始まり  
君の指のへこみがついたらほすに変わりばんこに口つける 好き  
ガス入りの水のせいだと君は言う不器用な舌のキスの言い訳  
雨音が止む深夜2時サヨナラに聞こえる君のちいさな寝息  
水風呂に突き落とされたようだったぼくらはずっと一人ずつだった  
真っ黒な海の獣の手のような波よわたしを連れていって

榛 瑞穂 @maimaitsuburo

## ミルク

silent dot 染みないで夜明けがくる、などと 過去に黒鳥はいない  
再生の水がぼんやりたまりくる陸をもつものエチカそよげば  
どぼどぼと海賊のゆめをみたのだとうったえおえる夕べのことも  
著我の花 声をききたい檻のうちからのような心濡れおり  
まるで子を思いそびれて立つようだ潮くさき潮くさき獣、ともなく  
待つ水のうごく理由を教えられそうやってしぬ 赤い月 きみ

とみいえひろこ @hirokodori

## 雨に咲く

マグカップふたつ分だけお湯を沸かす雨降りの朝の薄暗がりに  
「雨男だから」と困ったように笑うあなたとふたり雨音を聴く  
紫陽花は雨をあつめて咲く花 あなたは雨に愛されたひと  
街路樹から降る雨の色、夏に近い雨にはみどりがつよくひかるね  
手を繋げば温い ひとつの傘差してしあわせとはこの最小単位  
雨あがりの街はあかるく完全な空の一部となるみずたまり

長月優 @spicadrop\_

## 湿度

ひび割れが残る親指治り始めるもう春も終わりはじめる  
変わり目ののど飴が付く溶け滴包装紙食み剥ぎ取るざらり  
名を知らず写す紫紺の草の花雨の降り明け露ありて知る  
室内に降り染みる雨凝縮しせせらぎを吐く立葵咲く  
風そよぐ駅のホームにじわり夏みずみずしさが湿度に変わる  
干からびたコンクリートに墜落す綺麗なままの黒羽の蝶々

川庭多機構 @nyakatsuki

## とってちってた

いつまでもやまない雨におとうとはうれしくなって家をとびだす  
あとをいくわたしを一度ふりかえり水たまりへとジャンプする足  
おとうとの水かきはまだ小さくて上手に泳ぐことができない  
らっぱならかっぱらってほしいじゃない濡れたくちびるとってちってた  
傘のないふりをしたからびしよびしよで、びしよびしよなのはいいんだけど  
背泳ぎがとてきれいな人といいつか尻子玉を抜くつもり

わしね @001kitsune

## ストレイキャット

ゆく人は傘の縛め解きながら早足となり匂い立つ雨  
見渡せば切り取り線に囲まれたような広場に花だけはある  
鼻面を押さえ続けた掌を見やる路面に映るテールランプよ  
風は西へ移るのだから左手の歌集めかけて集まる流れ  
踏切のまたたきの間も火照るゆえ髪吸いきれないほど水を  
単線の遅延を告げるアナウンス濡れているのはベンチだろうか

中村成志 @nakam8

## 水垢のような恋残り

とめどなく山泣くなかに ひとりきり これほど泣いてしまいたいのになにげなくグラスふたつの水の跡 滴合うのをぞむだなんて  
雨花のように咲いたらすぐに散るそんなふつうのともだちにして  
やすらぎの夢へ逃げても起こされる滴りおちる偲び露に  
水擦らずだれも知らずにながれこみ好きな気持ちはもういらぬの  
あの人のその心から終沫と恋したわたしよ すぐ消えなさい

奈月暵 @you\_natskey

## 雨の日

新しい長靴はまだ大きくてドアの内から雨音を聞く  
いつの間にか強くなったの雨音が「いつてらっしゃい」かき消したのに  
水たまり踏まないという約束を破って靴は歌い始める  
ただいまと水玉模様のランドセル雨の分だけ重たかったね  
濡れたまま靴下脱げば裏返る雨の日だけに許す悪行  
靴下をぐるり直して洗濯へ息子らの日々正しく巡れ

木原ねこ @kharaneko

## 朝霧

降り出した雨に触れんと伸ばす枝ミズキのように人恋し朝  
知っている橋の名前を言い合って並んだねポップコーンまでの行列  
茹で加減にこだわる君に褒められたグリーンアスパラ得意顔して  
もう少し経てば光を得られるか対岸に居るホテルを探す  
行間を流れる川に身を委ね読み返してる君からの文  
朝霧を喜ぶ幼と手をつなぎ歩く大きな背中が消える

希和子 @mitononon

## 泉ヶ池のことなど

泉区の泉公園内にある泉ヶ池に今朝のしずまりカモを見る 今押されたらこの池に落下することなども気にしてカモが二羽いでここで写メ。カモが二羽さらに来て四羽になって写メ。毛づくろいしている池のカモからの絶え間なく出続ける波紋だ風が出て泉ヶ池にうすうすと恋の予感のようなゆらめきここまでは音のない川ここからは音のある川ひかり集めて

工藤吉生 @mk7911

## 古井戸 / fluid

あの店で水を出されたのかどうか覚えていない 霞む、巻かれる何もかも投げ込んだ井戸は限界で恐らくそれがあたしのすべて頼るべき相手はあんたじゃないってこと、知ってる、知るかよ、楽しんでくれとめどなく煙とともに吐き出していかれてんのはあたしのほうだ降り立った駅前の道は濡れていてあんたを急に遠く感じた「それでよく眠れるね」っていう声を反芻しては飲み下す水

鶏尾ねじ @njTKRV

## 不穩

雷鳴は不穩を告げるそのひとへ伸ばしたゆびを諷めるようにあんなふういきみも唇で唇に触れるのだろう立ち込める雲ひとりじめできないことを飲み込んで胃の内側に降らせる冷雨歩けない理由に替える匂い立つ舗装道路に滲んだ「止まれ」[雨音がさみしさを引き連れてきて夜更け記憶の声をひもとくばらばらと傘が呼ぶからもう一度振り返っても構いませんか

千原こはぎ @kohagi\_tw

## いつかふりかえる

水底に沈めた花を拾うため屈めた背中のような初恋泡になる前に見つめた横顔は本当に目を閉じていたかな真珠貝ではない爪を置いていくゆびからこぼれひかりになって言葉などいらないという高慢な(健気な?)少女に世界を星を花言葉「あなたはいつかふりかえる」思い出す日がわたしの命日ゆるやかな祈りはやがて海に着きもうふりかえることはありませんでした

塚田千束 @a\_oneko

## まだ雨を探している

水差しが朝日の窓より注がれてフェルメールの絶対零度雨粒が光り流れる青電話さがし続けてストリートビュー傘さしてプチ出奔する真夜中はどんな路地でも異国になれる微笑みでリセットボタン押すような別れのあとの雨はしょっぱい異国から持ち帰られたノオトには雨粒ばかり記されていた遠い声絶えぬ大河に黒々と記憶を沈め許される眠り

河野瑤 @kono\_yo\_tanka

## やさしい罪

水槽のプラネタリウムに時の舟もつと溺れていたかったのに目覚めれば水底でした独りきり砂に埋もれた時計をさがす六月はやさしい雫もうどこにいても潤んでしまう三日月降りそそぐまばらな夏にいつまでも翳りつづける黄色いベンチ銀幕に流れるレビュー誰ひとり見ることのない海の静けさやさしさが痛いと思う日もあると気づく七月降りしきる雨

香村かな @komukana

## 健康ランド

ジェットバスに溶けてあぶくになることもあるかも知れぬ人魚を想う岩塩の岩盤浴に長居してここは注文の多い料理店蒸し焼きにすれば程よく柔らかく味の染み込む我がのむね肉ていねいからだ洗えば洗うほど美しさとはなにかかと思うバスタオル広げても空は飛べぬまま肌に残った水滴を拭く正しさの標本として腰に手をあてて飲み干すフルーツ牛乳

月丘ナイル @nyie\_222

## 雨ふる夜に思うこと

綿の実の白雲に指さし入れて雨粒の元を確かめている無秩序のなかにしずかな秩序ありちいさな池を穿つ水滴白糸で初夏の緑を縫うように小雨降るなり音もたてずに金の雨銀の雨ふり紫陽花は恍惚とせりダナエのごとく盛り上がりかすかに震え待ちいたる冷酒に君はくちびるを寄す独り寝の雨のふる夜に思うこと太くて重い腕を抱きたし

月下 桜 @tukishiau

## 青い傘と頭

umbrella 想う涙に意味もなく重ねた願いは五月雨みたい  
遠い空泣いていたのは隣人に虹が綺麗と言わせるためだ  
留守の夜残る雨音儚くてあなたの気配無くしてしまふ  
退屈を我慢できれば今だっていつかの雨が何故か降りだす  
黙って強がる僕は手を伸ばしぼんやり光る雲の向こうを  
半分こ青い傘差し何気なく短歌を詠むのガールフレンド

竹田 @octopax9240

## 洪水幻想

お祭りの少女帽子を落とすとき逆さまに立つ初恋の君  
偽装した街の水辺の紫陽花が爆弾みたい雨に打たれて  
目をぎゅつとつむれば光群れはじめ乳房陰唇なめれば光  
占いをみんな信じているらしい女の股にぼつんと黒子  
青姦の最中の不意のスコールは(さよならごめんバイバイまたね)  
しなだれる黄色い肉を突き飛ばし月の光の下では綺麗

種子島鉄丹 @thh1979

## いつも不機嫌

泳ぐとき背中に羽が生えそうな室内プールの水は空色  
夜になり会員制のプールにはお浄めのため塩素足される  
まつすぐにフロート沿いに泳ぎきる迷う道ない温水プール  
水油無理やり混ぜたドレッシング別れるまではいつも不機嫌  
六月の雨は甘くて温かい口移ししたみづが溢れる  
土砂降りに濡れるのは嫌わたしから湧き出る汗も土砂の一片

瀬戸モリ @muramy3939

## 零れ桜

いつか道を違えてきみは川向こう 枝葉のさきにそれぞれの花  
かざす手に陽はやわらいで左手は忘れてしまふ淡くもきみ音  
音をたてて泣いているのか零れゆくさくらにぼくはどうしようもない  
散ることは手を離すこと ひとりでもこんなに花は潔いのに  
ともに見るさくらの花がないことも心残りという花筏  
水に浮くはなびらならば泡沫のそれでもひとに思われるなら

琴平葉一 @kotonoha31

## なみだなみだ

悲しみに引き寄せられて眼球のあたりに涙集まってくる  
なみだなみだなみだなみだとウミネコが鳴けば海とはやわい涙腺  
水分と塩分とをしっかりとってあたしあなたの涙になるよ  
向日葵の代わりに泣いたあの日から涙がずっと帰ってきません  
雀にも涙を流してしまふほど悲しいことがあったのだろうか  
新しい涙の流し方を知り 花火 かすかな晩夏であった

田村穂隆 @Da\_Ho\_Ra

## 見送る雨、迎える朝

泣いたのをしとしと雨のせいにして見上げる煙水無月の朝  
逃げていく温かい手と雨の音 明日からどう生きていこうか  
寂しくて潜った湯船午前2時 赤子へ還るそんな気がして  
亡き母の香りふうつと蘇る銭湯帰りの濡れた髪から  
雨音が激しくなればなるほどに薄れていくのは涙の記憶  
風香り赤白黄色がボンボンと沼の底から光が見えた

知己凜 @Chikirin7

## 空つ水

あらかじめけがれのなき種を蒔き去らう驟雨のまへの青き大地<sup>そはだ</sup>  
唇の端のしとりについた羽蟻をそつとつまんで空へはなさむ  
うたかたの国はじけ消えてやはにはじけ消えしをぬるソーダ水  
二階より音のせせらぎとしていまニック・ドレイク流れてきませり  
締めあまき蛇口のしづく見つむれば数かぎりなくわれのかほあり  
引き波がさわさわしるのをのこしていく風つよければ乾きみじかし

左久間瑠音

## 水だけか知っている

水底に沈む夕日は微笑んで月が流した雨は何色？  
汲み上げた井戸水を飲む少女だけ知っているから「母さんの味」  
ただの水ワイングラスに注がれて高給取りの雰囲気を出す  
原産地知られていない謎の水飲むと不死身になるといふけど  
秘密裏に改造された少年の口から流れる赤錆の水  
濃い闇の透明感はお増したダムに沈めた君の泣き声

ササキ アンヨ @shibainubooks

## 今日も晴れ

ふるものとしての口付け 欲しいならわたしの水は飲み干すように  
傘の柄のごくあなたにくるまれてあなたの手をながれる血潮  
ときらぬパニラアイスにつぶつぶとパンを浸した指はどれです  
(てのひらもゆびさきももうどこからがあなたで水で雲でとろけて)  
雨傘をわすれてしまい駅からはひとりひとりとぬるませてゆく  
すべからく会うときは晴れ 雨の夜はあなたの水の音がやまない

笹谷香菜 @sstkn

## 水になる

なれるなら春のくうきの水分子 5 期限の進路調査票  
曾祖母が命休めし病しつで甘雨を浴びる水の妖精  
水無月の夜の深さを測定す少し遅めの反抗として  
コーヒーに水銀落ちる音のして微笑むひとと微笑み返すひと  
養老の流れにからだを投げてごらん地球で生を浴びてるものたち  
水色のワンピースを着崩してわたしはどこにも溶け込んでいる

蛻妬林檎 @shitto\_ringo

## 2014年冬

捨てられた聖布だとして絵柄にはスイカとパンとワインのはなし  
茶を飲んでお菓子を食べて新聞をよむ母がいてゆめに気がつく  
地表から湧きたつ雲もそのなかに居れば気づかぬ白い水蒸気  
朝食はりんごひとつの雪のあさ珈琲をいま沸かしています  
昼食はみなとみらいのならわしがふたりにできた横浜暮らし  
水ぎはに萌ゆるみどりのさわらびの歌を思ひぬ春となるかも

春麗 @dipiurula

## あじさい (hydrangea)

あじさいを揺さぶるように泣かせたいひとがいました雨がきれいで  
六月雨 別のルビなど知らないが憶えておこうこのみずたまり  
ああ、これは手招きですね水中花にきみの仕事を重ねてみれば  
除湿機に溜まった水は一日じゅうわたしがいた部屋の疲れか  
とりたてて理由などなくテーブルに飾ってしまった紫陽花とみず  
名にさえも水をたたえる花だから青すぎる星とおもっ

杉谷麻衣 @kazanagistreet

## 夕凧

日曜の海岸通りわたしたち幸せそうな二人に見える  
泡になる人魚の話かわいそう誰がって王子かわいそう  
夕暮れに海の水なら青くない 呼べばふるえるところのように  
見るだけにはもう飽きておだやかな水平線をたぐり寄せたい  
かえろうか あなたに腕を放されて波うちぎわに帽子を落とす  
沈黙にやさしくなれば問うことも問われることも溶かす夕風

嶋田さく@sakrako0304

## 夏の客

この夏のぼくが最後の客らしい ひとり眺めている夜の虹  
靴の中にはたまった水が夜空には馬鹿げたほどの星の死骸が  
きみがラジオをつけるいつも美しい水が流れる一分間だけ  
誰もみな物欲しげな夏 水面に映った顔が骨を唾える  
水面に映ったきみの横顔とぼくの仮面が揺れている夏  
愛おしむ夏の最後の客として 天井扇の羽根の水色

雀来豆 @jackbeans2

## エイチシックスオー

連続で人が爆発する事件どうやらみんな水を飲んでる  
近頃のなんちゃら水に含まれるガスが原因だって、こわいね  
「この水にピンと来たなら一〇番」電話が常に鳴り続けている  
突然の悪夢によつてスーパの棚がまるまる空いている今日  
爆発がまた起きました回収に応じなかった家のようです  
野次馬のひとりのペットボトルにはH、6、0、おい、待てよ

スコラブ @scope\_scape

## ウォーター・コンプレックス

淋しさを足してソーダで割ってからだそがれが来た、それで一年  
キャンセルのメールの余白を読むことに慣れてむらさきいろの五月雨  
夏に咲く花、おそなつの海どれも唯一無二の明朝 いいね  
手紙など読まない人よ波色のインクのかすれ まだ寄せている  
あっさりとした海辺の恋は終わらせてこの再会について語ろう  
雨までの距離とは時間なのでしょううたちまち翳る瞳の色を見て

たえなかず @suzusuzuz2009